

同志社大学

2013年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2014年 2月28日提出

所 属	職 名	氏 名
経済学部	教 授	船橋 恒裕
研 究 題 目	少子高齢社会における経済と福祉問題	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本年度は、医療制度における自己負担を増やす政策が、家計の入院医療費にどのように影響しているのかを明らかにしてきた。分析手法については、時系列データを用いて、コインテグレーション分析によって家計の医療支出に関する消費関数が推定された。この動学的誤差修正モデルの推定結果により、5つの変数が被用者医療保険の入院費支出に影響していることが確認された。結論として、入院医療の自己負担額が増加する医療制度の改革が、家計に大きく影響することが示された。これについては、経済学論叢（同志社大学）の第65巻第4号に掲載される（予定である）。</p> <p>研究費は、これらの研究に対して使用された。具体的には、パソコンおよびその周辺機器の購入、同様に、書籍、雑誌、その他文具類の購入に使われ、研究の促進とその成果となる論文の作成に使われた。</p> <p>また、言うまでもなく、講義内容についての充実化、各学会費などに使用され、教育・研究の充実化の促進に寄与した。</p>	